

保護者のみなさまへ

新学習指導要領における これからの学習評価

新学習指導要領が平成29年3月に告示され、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となりました。それに伴い、学習評価の観点の見直しが行われました。

学習評価についての基本的な考え方

今回の改訂でも、学習評価は、学習指導要領に定める目標に対する、一人一人の達成度をみる「目標に準拠した評価」(いわゆる絶対評価)によって行われます。

学校は、一人一人の学習の目標の到達度を評価し、学習指導要領に示された資質・能力が確実に身に付くよう、学習指導の改善を行っていきます。また、子供たち自身が自らの学習を振り返って次の学習につながるように支援していきます。

保護者のみなさまには、新しい学習評価についてご理解いただき、通信票等で受け取った結果をもとに、子供たちの学習がより充実するようにご協力をお願いいたします。

新しい評価の観点について

今回の改訂で、学習状況の評価が4観点から3観点になりました。

◆ 教科の評価

知識・技能

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するものです。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を身に付けるために、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しながら学んだりしているかを評価します。

観点別学習状況の評価の見方

通信票では、観点別学習状況を次のように評価します。

「十分満足できる」状況と判断されるもの …………… A(◎)

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの …… B(○)

「努力を要する」状況と判断されるもの …………… C(空欄)

※A・B・Cは中学校 ◎・○・空欄は小学校

◆ 教科以外の評価

「特別の教科 道徳」「外国語活動」(小学校第3・4学年)「総合的な学習の時間」(小学校第3学年以上)については、学習指導要領に示す目標を踏まえ、文章の記述による評価を行います。

観点別学習状況の評価及び評定の例

◆ 単元（題材）の学習状況を踏まえた評価の例

各教科等で単元（題材）の目標や評価の規準を基に、評価場面を設定して評価します。

（小学校の例）

観点	各単元の学習状況				学期ごとの 観点別学習 状況の評価
	かけ算	たし算とひき算の 筆算	棒グラフと表	わり算	
知識・技能	○	◎		○	○
思考・判断・表現	◎	◎	○	◎	◎
主体的に学習に 取り組む態度	◎	◎	○	◎	◎

総合的に判断して

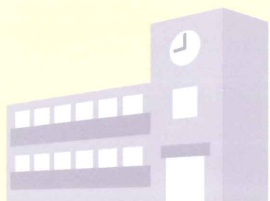
（中学校の例）

観点	各単元の学習状況			学期ごとの 観点別学習 状況の評価
	式と計算	連立方程式	一次関数	
知識・技能	B	B	B	B
思考・判断・表現	B	B	C	B
主体的に学習に 取り組む態度	A	A	B	A

総合的に判断して

◆ 観点別学習状況の評価から評定へ

学習の実現状況を小学校第3学年から第6学年では3段階、中学校では5段階で評定します。



（観点別評価から評定へ総括する際の例）

観点別評価	評定(小学校)	評定(中学校)
AAA	3	5
AAB		5または4
ABB		4または3
AAC ABC BBB BBC	2	3
ACC		
BCC		
CCC		
BCC	2または1	2または1
CCC	1	1

※小学校ではA=◎, B=○, C=空欄

評定の見方

小学校	3：たいへんよい
	2：よい
	1：努力しよう
中学校	5：十分満足 (特に程度が高い)
	4：十分満足
	3：おおむね満足
	2：努力を要する
	1：一層努力を要する

学習評価に関するQ&A

Q1 観点別学習状況（中学校）の評価が「AAB」の場合、評定が5と4があるのはなぜですか。

A 評定は、一律に決まるわけではありません。AとB（小学校では◎と○）にはそれぞれに幅があり、BにはAに近いBと、Cに近いBがあります。よってその総括としての評定にも幅が出てくるので、評定に違いが出てきます。

Q2 他の学校へ転出した場合、その学校での学習評価（観点別学習評価や評定）に違いが出ませんか。

A 市内の各学校では、共通した学習のめあてを教科ごとに設定し、このリーフレットの考え方に基づいて学習評価を行っていますので、大きく違うことはありません。

Q3 中学校のペーパーテストで高得点を取ることができましたが、評定が5ではなく4でした。各教科の評価は、どのような項目で評価をするのですか。

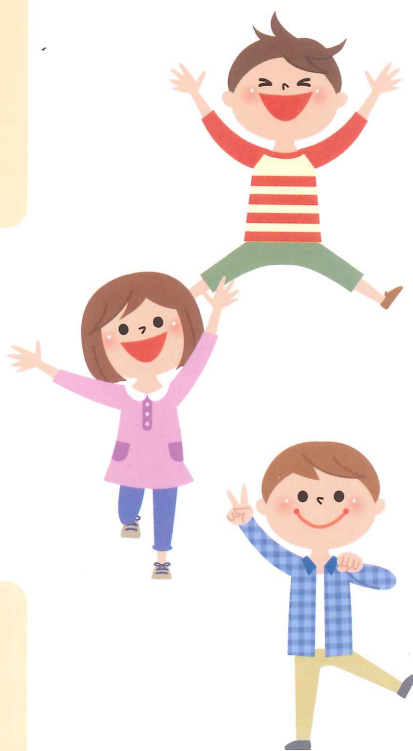
A 評定は、テストの点数のみで決定されるものではありません。各教科では、目標に照らし合わせて、その学習の実現状況を評価できる評価項目と評価方法を設定します。例えば、ペーパーテストによる評価の他、実技や表現などのパフォーマンスによる評価、レポートや作品等の作成物の評価、実際の話合いの様子を観察や、ノートやワークシートの記述や授業中の発言からの評価等、学習の実現状況を評価するのに適した様々な評価項目や評価方法で評価します。

学校では、こんなことに努力しています

基礎・基本の確実な定着を目指して、少人数指導・習熟度別指導・チームティーチング等の指導法の工夫に努めています。

子供たちや保護者のみなさまの授業評価を生かして授業改善に努めています。

学校だよりや保護者会等で評価についての説明をしています。



評価を生かし、子供たち一人一人の力を伸ばすために、補充的・発展的な学習等に取り組んでいます。

評価の妥当性や信頼性を確保するために、評価規準や評価方法の研修に努めています。

家庭との連携をとりながら、家庭学習の習慣化が図れるように努めています。